

# 教

員の長時間労働が問題にされるようになったのは、昨日今日のことではないのだが、一向に改善されない。学校現場のブラックぶりが広く知られるようになり、実際にそれが理由で教員を志望しない学生が増えていると聞かされると、何とかしなければと思う。

ここ数年は、研修会で各学校の是正案を持ち寄って紹介し合う時間など設けられているのだが、これがまったく盛り上がらない。それぞれに工夫はしているのだが、いたって些末なことばかり。かき集めたつてたいした時間短縮にはならないのである。仕事を増やし続けておいて、働き方はそつちで考えて変えてね、と言われてもねえ、としらけた気分が覆っている。働き方改革の改革ってこんな小細工に使う言葉じゃないだろうに。

長時間労働の原因の一つが電話だ。毎日おびただしい数の電話がかかってくる。ならば、企業や役場にならって午後五時以降は電話の応対なし、としてしまえばよいようなもののだが、ことはそう簡単にいかない。保護者に連絡しないといけないことがあつたとして、きょうびすぐには連絡が付かない。留守番電話に用向きを言っておいて、待つよりほかない。どうしても会って話しておきたいことになる、その後の来校

まで待たねばならず、時間ばかりが経過する。

電話は、ほとんどかける側の都合が支配するので、多かれ少なかれ、かけられた側は、中断を余儀なくされるし、時間も奪われる。そんな煩悶がにじむ電話もあれば、意図的に侵入をねらったものもある。受話器を置いた後、残り香のようにぼくのまわりに漂う声のかげら。すぐには消えない。そしてまた呼び出し音。

子どもの頃、母の実家の玄関先にはダイヤルのない電話機があつた。ダイヤルが陣取っている部分は格子状になっていて、ときどきそこから話し声が聞こえてくる。母に尋ねると、「ゆうせん」と教えてくれた。電話ではあるのだが、そこでの会話は、ゆうせんのあるところすべてに聞こえる。

「だーんだーんだーんだーん。はっ、だーんだーんだーんだーん：」

延々と繰り返されるおばあさんの声にあつげにとられて笑っていたら、

「○○のおばばだ。」

と母も笑っていた。何かのお札を言っていたらしい。

学校の電話をゆうせんに替える。これは、画期的な改革になりはしないか。電話は激減するだろうし、SNSの拡散も恐るるに足らず、拡散が前提だ。聞かれて困る話には手間暇かける。提案してみようかしら。



専業ババ奮闘記 (その2) 24

## 木幡智恵美

スイカのおっつあん (4)

長男の年二回の帰省は、また高速バスに戻った。たまに神戸に掃除に行つた際は、朝六時半に自転車で出勤する長男を見送ることが何度か続いた。

「会社の車を譲ってもらつて、こんどはそれで帰る」と聞かされた時は、ドキッとした。自動車免許取得からして躓きばかりで、ようやく自家用車を持つたのも束の間、免停で、半年も経たないうちに手放している。正直、息子には車に乗ってほしくない。しかし、もう車検も済ませ、乗っているという。会社で使っていた車だから、きちんとメンテナンスを施しているだろうが、相当古い車で、走行距離も三十万キロ近い。

義母の白寿の祝いをした年のお盆に、その車で帰ってきた。ハイブリッドで燃費はいいし、走行時も静かな車で、そこまで年季が入っているようには見えない。よほど、行き届いた手入れをしていたのだろう。乗せてもらうと乗り心地もいい。

翌年のゴールデンウィーク、我が家で義母の百歳の祝いをした際も、息子はその車で帰ってきた。古いながら、ちゃんと走ってくれているようだ。

ところが、その夏の帰省の際、つまり、息子が会社から譲り受けた自家用車での三度目の帰省の時、異変が起こった。

猛暑が続くお盆前の早朝、夜中に出たという息子は五時台に帰ってきた。いつもながらはらはらせる息子だ。「スピード出さなかった」と聞くと、「もうあんな思いはしたくないわね」と答える。免停は相当堪えたようだ。今回は、一泊し、二日目の夜、早めの夕食を摂り、七時過ぎに息子は家を出た。

メールが入ってきたのは九時前。「エンジントラブルでJAFに連絡した」とのこと。出発した時刻からすると、萩山あたりか。

30代フリーター やあ、ジイさん。三浦春馬、芦名星、藤木孝、竹内結子と、この2か月余りのあいだに4人もの俳優が立て続けに自殺と見られる死を遂げた。

年金生活者 この職業に特有のきつさがいま一段と増していることを暗示している。

ウィキペディアにある著名な自殺者の一覧によると、俳優の自殺は2012年11月22日に死亡した玄也という俳優、スタントマンにまで8年近くさかのぼらないと例がない。2か月と10日ほどのあいだに4人というのは例外的な多さと言わなければならない。

30代 自殺が報道されると自殺率が上がる、と社会学などの専門家は考えていて、それを「ウェルテル効果」と呼んでいるようだ。三浦春馬のあとに自殺が続いたのはそれが当てはまるかもしれない。

年金 だが、それがなぜ俳優だったのかという疑問にこたえるには、この仕事がいま置かれている状況を考える必

は多数に認められることを意味するからだ。死は人を普遍的な存在にする。生は徹底的に個別的な営みであり、その否定である死は個別性を脱して普遍性に移行することだからだ。

30代 警察庁によれば、今年8月の自殺者数は1854人（暫定値）で前年同期よりも251人、15%以上増加している。2019年までの全国の自殺者は10年連続で減少し、今年に入ってから1〜6月は前年同期に比べて減っていたのに、7月に入って増加に転じ、8月はさらに増えた。新型コロナウイルスによる影響の可能性は排除できない。

年金 次のようなツイートがある。「俳優、女優の自殺が相次ぐのは、いままでも自分の人生かけて仕事してきて生き甲斐もあったのが、コロナでロケもまともにできず、不要不急と言われ、失望したってこともあると思うんだよね。人間はお金があっても自分が必要とされないと感じると病む」「少なくとも芸能界は仕事が激減した

要がある。

俳優というのは大勢に見られて成り立つ職業だ。見られれば見られるほど評価は上がる。それは当人の承認欲求を満たすのに飛びぬけた効果があるはずだ。その一方で、評価が上がったぶん、わずかな瑕疵を批判されるリスクを負う。かつてはそれを回避するため本人の個人情報に厳重にガードされ、「雲の上の人」としてのイメージがつくられた。

だが、現在はそうはいかない。かつては人気の源泉でもあった「雲の上」は今では不人気のもとになりかねない。日本人の大多数が貧しかった戦後の俳優を豊かさの代替物にして、いつときおのれの貧しさを忘れた。だが、高度経済成長を経て貧困から脱した現在は、もう俳優を「雲の上の存在」と見ることができなくなった。

俳優が人気を得るには「雲の下」にいること、親しみやすいキャラクターであることが必要となった。その結

のは確か」（永江一石、9月28日）

では、芸能界の中でもとりわけ俳優の自殺が続いたのはなぜか。歌手や芸人に比べると、俳優の仕事は衆目に身体をさらす度合がより大きく、浴びる視線の量もそれだけ多い。歌手は声を、芸人は話術をおもにさらす。つまり身体機能を部分的に、しかも比較的短い時間さらす。これに対して、俳優はそれらを含めた全身を長い時間さらして演技をする。

果、見上げられ、あこがれられる対象から、ときにはからかわれたり、とがめられたりもする対象に変わった。

「雲の上」から下りたぶん当人の個人情報に対するガードは緩めざるを得なくなる。SNSの普及はその情報を一瞬にして拡散するようになった。俳優は人気が出れば出るほど、からかわれたり、とがめられたり、たたかれたりするリスクが増大する職業となった。

かつては承認欲求を満たす効果が抜群だった人気の高まりが、いまはその逆の効果をも発揮する諸刃の剣となった。おのれを否定され、自尊心を損なわれる危険と隣り合わせの日々を送らざるを得ないのが現在の俳優と言っている。

30代 そのことがなぜ死への跳躍につながるんだ。

年金 自殺は損なわれた自尊心を回復するための手段として選ばれる。自尊心はおのれを普遍的な存在とすることによって得られる。普遍的であること

大勢の視線を全身に浴びてこそ俳優であり、そのことが本人の承認欲求を満たし、アイデンティティーの構成要素となる。もしその視線が遮断されたら、当人のアイデンティティーは危機にさらされる。新型コロナウイルスは、「3密」となるロケを困難にし、映画館を休業させた。歌手や芸人ならできたネット配信も、俳優には手間ひまがかかり過ぎて難しい。大勢の視線をさげざられ、危機は避けられなかった。

30代 俳優に限らずコロナ禍の影響による自殺はこれから増える可能性がある。

年金 「不要不急」とされた芸能の仕事はコロナ自粛の影響をもちにこうむった業界のひとつだ。その中でもとくに俳優が打撃を受けやすいのはさつき言ったとおりだ。かつて炭鉱内で有毒ガスを感知すると鳴きやんで危険を知らせたカナリアを思い起こさせる。相次いだ俳優の自殺は今後の事態の悪化に備えるように促す警報として受け取る必要がある。

ニュース日記 756  
中村 礼治

## 俳優の自殺が物語るもの